

ほんとあそぶプラス



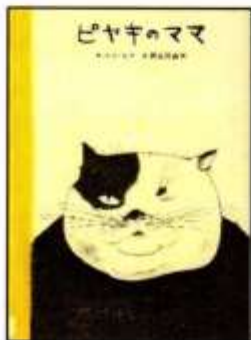
84号 2023年3月29日

おすすめのえほん



『ピヤキのママ』

ベク・ヒナ／作 長谷川義史／訳
ブロンズ新社 2022



ふだつきねこのニャンイが、ひよこを産んだ。どういふこと!? 突然出現した小さな命にピヤキと名付けて、母性に目覚めた。韓国人気作家ベク・ヒナの迫力満点手描き絵本。

(KW)

『くるまね? でんしゃさ!』

うちむらたかし／作 クレヨンハウス 2022

ねずみさんは、くるまで上の道を走る走る。りすさんは、でんしゃで地下をタタタタと進む進む。上下にわかれて、どんどんいく。どっちも良いなあ、あなたはどっち?

(H)



『PIHOTEK』～北極を風と歩く～

萩田泰永／文 井上奈奈／絵 講談社 2022

銀色の線で描く、^{うつ}現と夢の世界



極北の地に赴いて20年。風に吹かれて、地球という命に思ひ至る。ピヒュッテイとは、萩田さんのイヌイットネームだ。後記「あわいにとけいる」がシーンと心に残る。

(HF)

『おまえたち、くっちゃんぞ〜!』

わにがめのアルとちいさなさかなたち

ジョン・ヘア／作 万木森玲／訳 岩崎書店 2022

わにがめのアルは、魚とりが大好き。特別なべろで魚をだまして食べるのだ。今日も池の底で口を開けて待っていたら小さな魚がやって来た。ところが、思いがけないことに…。

(S)



『サンサロようふく店』

アン・ゼソン／作・絵 林本林／訳
TOY Publishing 2022

みんなが民族服を着ていた時代に、ドックさんは洋服の仕立て屋さんを始めました。戦争を経て、店は三男のサンドルさん、その次男のドゥシックさんへと引き継がれていきます。

(AK)



『ぼくとお山と羊のセーター』

飯野和好／作 偕成社 2022

羊のかおり ありがとう



山の中で暮らす小学生のぼく。夏は蚕の世話、秋は干し柿づくり、冬は薪集めと、ぼくも家族を手伝います。季節はめぐり春、育てていた羊の毛でぼくのセーターができる日がきました。

(F)

『ことばとふたり』

ジョン・エガード／文
きたむらさとし／絵・訳 岩波書店 2022



ことばをしらないいきものがいた。ある日、ことばをしっているいきものと出会った。「ハグ ハグ」お互いを認め合った魔法の言葉! その日から、ふたりは心豊かに平和に暮らしはじめた。

(KW)

『びんにいれてごらん』

続編『びんからだしてごらん』もあります

デボラ・マルセロ／作 なかがわちひろ／訳
光村教育図書 2022



ひとりて花や羽をびんに集めていたルウェリンは、エブリンと出会います。ふたりで集めたのは、雨上がりの虹や波の音、びっくりやわくわく…。別れと出会いの季節におすすめです。

(T)

『だがし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか？』

多屋光孫／作 汐文社 2022



ぼくとまきちゃんがいつも行くだがし屋のおっちゃんを、近所のおばあちゃんが「はるこちゃん」と呼んでいた。ガニ股歩きていつも大声の、どう見ても男のおっちゃんが女？

(MT)

『アリュージョン☆マジック』

あべ弘士／作 のら書店 2022

ラッコたちは、北極一番の一品師ポーラマンから、ふしぎなマジックショーに招待された。藍色の波からとびだすタコやクジラ、海鳥たちのダンス。幻想的で美しい海の世界。



(M)

おすすめの物語

『かわいい子ランキング』

ブリジット・ヤング／作 三辺律子／訳
ほるぷ出版 2022



8年生の携帯に一齐に送られてきたリストには、学年でかわいい女子の1位から50位が書かれていた。クラスでも目立たないイブが1位になっていたことで、学年一“美人”のソフィーは傷つき、イブの日常は一変する。私は何者か、誰が判断するのか…誰しもの中に潜む差別、ルッキズムに中学生が真っ向から立ち向かっていく。

(AK)



『うみべのおはなし3にんぐみ』

『木のうえのおはなし3にんぐみ』もあります

ジェイムズ・マーシャル／作 小宮由／訳
大日本図書 2022



砂浜でピクニックをしていた仲良し3人組。ローリーの作ったねことねずみのお話を聞き始めると、サムもスパイダーも次々とゆかいなお話を作ってはなしはじめるよ。子どもたちの想像力って楽しい。挿絵がたくさんで文章も易しいので、一人読みを始めた子どもにぴったりです。

(JY)

『やまの動物病院』

なかがわちひろ／作・絵 徳間書店 2022

町はすれにあるまちの動物病院はいつもがらがらです。まちの先生の腕は確かですが病気やケガの動物はめったに来ません。でも、夜になって先生が眠ってしまおうと咳が止まらない子ギツネやひどい手荒れのモグラなどの動物がどんどんやって来ます。先生と暮らす太っちょ猫とらまるのやまの動物病院の始まりです。

(S)



『ふしぎなメリーゴーラウンド』

リーザ＝マリー・ブルーム／作 はたさわゆうこ／訳
こやまこいこ／絵 徳間書店 2022

移動遊園地のメリーゴーラウンドは、ほんものみたいな木ぼりの動物が大人気。じつはこの動物たちは、夜の30分だけエサを食べたり、おしゃべりができる。しかし、欲の深い夫婦に売られることになり、エサがもらえなくなってしまった。しょんぼりする動物たちだが、やさしい子どもになでてもらおうと、あらら、ふしぎなことがおきる。

(M)



『奉還町ラブソディー』

村中季衣／作 石川えりこ／絵
BL出版 2022

小6のさとしは、山口県から岡山市に転校してきました。仲良くなったあつしの家はまんじゅう屋で、歴史のある奉還町商店街にあります。さとしは商店街へよく通うようになりますが、そこには、べにやのおちゃん、たねやのおばあちゃん、理容店の井上さんなど、個性的な人がいっぱいいて、それぞれの話に人生が垣間見えます。

少年たちとお年寄りのあたたかい交流に、しみじみとした思いになります。

(N)



『手で見えるぼくの世界は』

櫻崎茜／作 酒井以／装画・挿絵
くもん出版 2022



視覚支援学校中学部に進学した“佑”と“双葉”。

成長と共に、周りの世界は否応なく広がり変化してゆくのに、そこに乗り出すには様々な不安が。だがやがて、少しずつ向き合うときが…。

戸惑いつつも、世の中の矛盾や多様性をまさに“手探り”で感じとり、自分の世界を広げて行こうとする二人の一年間がえがかれています。

(TY)

『千に染める古の色』

久保田香里／作 紫昏たう／絵 アリス館 2022



右大臣の娘・千古は十三歳になり、姫らしくするべきと言われ毎日退屈している。そんなとき、物語の絵巻から「かさねの色目」や「染め」に興味をもち、自分でも染めてみたいと思いはじめる。そして、こっそり染めの工房へ。もっとももっといろんな色を染めたい、かさねの色をそろえて物語の場面を再現してみたい、夢は広がるが…。

(YO)

『紫禁城の秘密のともだち 1』

常怡／作 小島敬太／訳 借成社 2022

紫禁城の中心にある大和殿の屋根には、仙人と10体の神獣が並んでいます。10才の小雨（シャウリ）は、お母さんが博物館の仕事のため、毎日紫禁城で遊んでいます。ある日、宝石を拾い、次々に現れる神獣たちとの冒険が始まります。

作者は、幼い頃聞いた紫禁城に伝わる不思議なお話を元に、神獣たちをよみがえらせました。

(KI)



『トロリーナとベルラ』

ドナテッラ・ツィリオット／作 長野徹／訳
北澤平祐／絵 岩波書店 2022



物語は野暮らし族（北欧神話のトロルなど）のお姫様トロリーナと人間の子ベルラが取り替えられるところから始まりますが、二人の周りで起こるエピソードが深遠なものです。たとえば、ベルラのためにブードルをもらいに保健所へ行った野暮らし族が、足が悪くて処分されそうな犬を連れて帰ることにします。

そのやりとりは愛おしく、色々な価値感、全体にたどよう自然と一体化した暮らしにも考えさせられました。かわいらしいさし絵も魅力的。

(H)



『エツコさん』

屋田弥子／作 光用千春／絵 アリス館 2022

エツコさんは元小学校の先生。近頃は道に迷ったり、お金の払い方が分からなくなったり困ることが増えてきたが、大人の元教え子たちは“エツコ先生”と呼び見守る。近所の小学生たちも、戸惑いながらもゆっくりとエツコさんに関わる。

エツコさんから見える風景と時間の感覚を周囲も少しずつ理解しようとしていく感じがいい。

(K)



『チャンスーはてしない戦争をのがれてー』

ユリ・シュルヴィッツ／作 原田勝／訳 小学館 2022

『よあけ』や『ゆき』を描いたシュルヴィッツが自らの少年時代を語ります。ポーランド生まれのユダヤ人であった作者は、第二次世界大戦の始まった時、4歳でした。ポーランドをでて、ソ連へ。飢えや病気、差別の中でも、絵を描くことや想像することを支えとし生きていきます。どこかユーモラスな文章と絵から、少年のみた世界がうかびあがります。



(T)

おすすめのその他のジャンル

『バナナの種はどこへいった？』

生きのこりをかけた植物のヒミツの生態』

川幅智佳／作 実務教育出版 2022



バナナの実の中に種の名残があるって知っていましたか？植物は動けないので、工夫をしながら生き延びてきました。植物のヒミツを、様々な面から解き明かします。

(N)

『僕らが学校に行く理由』

渋谷敦志／写真・文 2022



今、学校へ通っている子ども達、通っていない子ども達、そしてかつて学校へ通ったことのある大人達、その誰もが一度は口にした疑問、どうして学校へ行かなきゃいけないの？何のために学ぶの？

様々な理由から学校に行くのが困難な子ども達の写真を撮りながら、写真家の渋谷氏も同じ疑問をいだき考え続けます。

(A)

『エーリッヒ・ケストナー ～こわれた時代～』

クラウド・コルドン／著 ガンツェンミュラー文子／訳 偕成社 2022

『エーミールと探偵たち』(1929) 『飛ぶ教室』(1933) 『動物会議』(1949) などの他、詩人、劇作家としても多くの作品を残したケストナー(1899～1974)。ドイツで戦争の時代を生き抜いた生涯を重厚に描いた自伝。著者もベルリン在住。

(O)

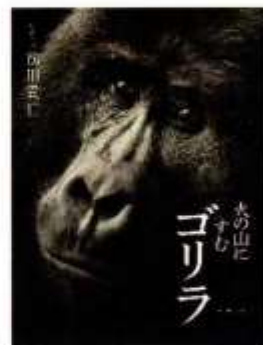


『火の山にすむゴリラ』

前川真行／写真・文 新日本出版社 2022

動物写真家の前川さんが、どうしても会いたかったゴリラに会うため火山地帯に行った。たくましいゴリラ。子どもたちと遊ぶゴリラ。人間と一番近いヒト科のゴリラ。野生のゴリラの魅力が紙面いっぱいにあふれる写真絵本。

(JY)



『草原が大好きダリアちゃん』

長倉洋海／作 アリス館 2022



シベリアでトナカイを放牧し、移動しながら暮らすダリアちゃん一家。トナカイの皮でテントやコートを作り、木を燃やして料理を作る。パソコンでアニメの映画を観る楽しみもある。草原は、家族みんなが育ってきた場所だ。

(K)



認定NPO法人高知こどもの図書館
選書委員会